

# 天溪 2013年「アンナプルナ内院 14日間」

## 第2部

アンナプルナベースキャンプはアンナプルナ1峰の南壁下部にあり、周りを7000m級の山でぐるりと囲まれ正に聖域の雰囲気を感じられます。標高差4000mの南壁に朝日が当たる様は神々しく、筆者お気に入りの所です。今年帰国便がタイ空港のトラブルに巻き込まれ、カトマンズ4泊を余儀なくされた2008年以来5年ぶりの実施でした。長い間お休みしたせいか募集開始早々大勢の皆様にお申込みをいただき感謝、感謝でしたが、満員でお断りした皆様には紙面を持ってお詫びする次第です。



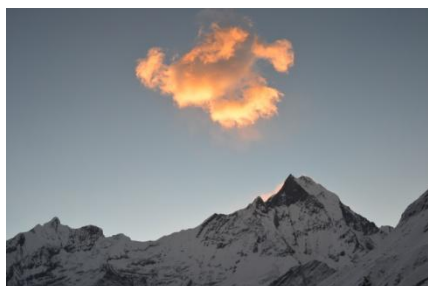
(アンナプルナ1峰 11/2日)

### ○アンナプルナベースキャンプ (ABC)

ABC 1泊や日帰りするトレkkerが多い中、我が隊は2泊し絶景を存分に楽しみました。ツアーにはかつてチロルツアーに参加され、エーデルワイスやドレミの歌を歌った時のK指揮者、Aサブ指揮者も参加され、ガスが湧き上がる前のたおやかな一時にお茶お飲みながら山歌の大合唱。ト리는何時もの様にK指揮者の第九独唱で!!。



(アンナプルナ1峰 11/1日)





○下山

MBC, ABC 合わせて3泊中 毎日午後はガスが湧き3時頃には雪模様。10Cm程度と深く積もる事は有りませんでした。下山日は8時間歩行の為に朝7時出発し、新雪を踏みながら宿泊地のバンブーへ。こんな雪景色でもアイゼンを付ける人は殆ど無く、ストック2本で上手に歩いていました。下山2日目からは気温が上がり、空気も濃く感じられ、桜咲く春ならぬ秋の中を収穫野良仕事を見ながらトレッキングを続けました。



(ヒマラヤ桜 11/3日)



○追加

パルテンバ・シェルパ (中央)、アンドルジ・シェルパ (右)、筆者 (左)

パルテンバ氏は1975年イギリス隊でエベレスト南壁初登頂、1971年エベレスト国際隊で植村直己さんらと南壁8000m到達するなどの登山歴、サードナーとして11回登頂隊を指揮し1人の遭難者を出していないなど、ヒマラヤの登山史に名前を残すシェルパです。



(サンセットビューホテルにて 1日)

今年はこのツアーを持って全て無事に終了する事が出来ました。この一年間、皆様より多大なご愛顧を賜り、心より感謝申し上げます。

来年は2月18日発 「ミルフォードトラックとマウントクック 11日間」 でスタートします。ご期待下さい。

天溪 赤沼